まち協だより

2024 年2月 25 日発行
No.46
【もう雪降らないの?!号】

《春は今どこに…》

今冬が“記録的な暖冬”なのかどうかはわかりませんが、それにしてもほんとうに雪が少ないですね。

一般的に（山に）雪が少ないということは春の雪解け水も少なくなり、夏場には水不足になったりする…と言われています。

それでなくても近年の“記録的な暑さ”です。

これだと“記録的な”気候が一年の半分になってしまい、春と秋が“貴重”な季節になるかもしれないですね。

名立のあちこちでおひなさまの姿を見ることができるようになり、気分的には春めいてきましたが、さて本当の春は今ごろどの辺りまできているのでしょうね？

《今日を明日に伝える…2024 まちづくりフォーラムの開催》

能登半島地震の発生から間もなくふた月が経過しようとしています。

２月 15 日現在で死者 242 人、負傷者 1,185 人の人的被害と 68,621 棟にも及ぶ住宅被害が明らかになっているとともに、未だに 19 市町 257 箇所の避難所で避難生活を送っておられる方が 6,724 人であることに加え、７市町の約 29,520 戸では依然として断水状況が続いています（データは石川県ホームページから引用）。

こうした現状から一日も早い復旧と復興を望むばかりですが、自然災害とそれに伴う大きな被害については私たちの暮らす名立でも多くの先人たちが経験されてきました。

そうした歴史を振り返るとともに、地震、津波に関する知識・情報を正しく理解し、より安全な津波避難を考えていくことが今まず取り組んでいくべきことと考え、次のページのとおり「まちづくりフォーラム」を開催することにしました。

講師の新潟大学災害・復興科学研究所の卜部（うらべ）厚志教授は 2018 年９月に実施した名立大町自治会合同防災訓練で地震や津波について理学的知見を含めた準備の重要性についてご講話（上写真）いただいたことがありましたし、能登半島地震以降も新聞やテレビ等で多くの情報を発信されていますので、ご存じの方も多いかと思います。

「今の私たちの生活を明日につなげるために…」ぜひ多くのみなさんからご参加いただければと思いますので、『申込み要領』をご覧いただきお申込みください。

2024 まちづくりフォーラム

（名立地区公民館「名立再発見講座」連携事業）

～福祉でも災害でも…自助・共助・公助のまちづくり～

「名立町史」によれば、名立周辺では天平 17（745）年から 7 回大きな地震に見舞われ、その中には名立崩れを引き起こした宝暦元（1751）年の大地震があり、名立崩れでは「名立小泊村の 91 戸中 81 戸が埋没し、428 名もの死者を出す大災害」となりましたが、「小田島村、平谷村、東蒲生田村、池田村でも後ろの山が抜け崩れ、大きな被害を出した」とあります。

県内における地震は昭和以降でも昭和 39（1964）年の新潟地震、平成 16（2004）年の中越地震、平成 19（2007）年の中越沖地震があったほか、国内では阪神・淡路大震災や東日本大震災ほか、甚大な被害が発生した地震がありました。

名立崩れの後、名立小泊村は奉公に出ていた人を呼び戻すなどして、20 年余り後の安永 2（1773）年には戸数が震災前の約 1/3 までに回復した…と名立町史では震災後の復興の歩みにも触れられていますが、その道のりは困難を極めたのでなかったかと思います。

名立ではこのほか洪水や大火などに何度も見舞われましたが、その都度、先人たちのたゆまぬ努力により、今、私たちはこの名立で暮らすことができているということに改めて思いを寄せるとともに、今度は私たちがこの自然豊かな名立を次代に伝えていく責務があります。

もう二度とこうした災害が起こらないように願うばかりですが、1 月の能登半島地震や名立の歴史を振りかえれば、「絶対…」ということはありませんし、もしものときの備えを始めるのに遅いということはありません。

みんなでこれからの安全安心なまちづくりをあれこれ考え、そして取り組んでいく機会にしたいと思いますので、多くのみなさんのご参加をお待ちしています。

主催：名立まちづくり協議会・名立地区公民館
共催：名立区住民福祉会
　　上越市社会福祉協議会名立支所
協力：名立区総合事務所

2024 まちづくりフォーラム・プログラム

（名立地区公民館「名立再発見講座」連携事業）

■開催日　2024 年（令和 6 年）3 月 17 日（日）13：30～16：30

■会　場　名立地区公民館

■プログラム

開　会　13:30

第 1 部　13:35

第 2 次名立区地域福祉活動計画・アクションプランの公表

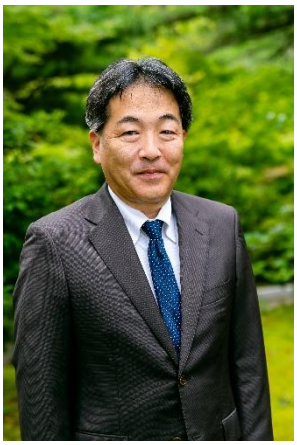
第 2 部

自助・共助・公助による安全安心な地域づくり

《基調講演》13:50

講師：新潟大学災害・復興科学研究所所長・教授　卜部　厚志　さん

（＊2018 年名立大町自治会防災訓練で講演）



演題『上越地域（名立地域）における津波浸水想定について』

《分科会》15:15

「自助」「共助」「公助」をテーマにした 3 つの分科会で情報提供のあと、参加者で意見交換を行います

第 1 分科会：私たち一人ひとりにできる「自助」

第 2 分科会：みんなで取り組む「共助」

第 3 分科会：地域が望む「公助」のあり方

《フォーラム総括》16:15

新潟大学災害・復興科学研究所

所長・教授　卜部　厚志　さん

閉会　16:30

《卜部厚志教授からのメッセージ》

地震や津波，洪水災害のメカニズムや減災の研究を行っています。

1966 年埼玉県生まれ。

新潟大学で学位を取得して，1998 年から新潟大学で研究を行っています。

今後も防災研究の成果を，みなさまに活用いただく活動を行ってまいります。

《フォーラム参加申込み要領》

〇フォーラムはどなたでも参加できますが、会場準備等のためあらかじめお申し込みください

〇第 2 部の分科会にも参加いただける方はご希望の分科会をお知らせください

〇お申し込みは、3 月 11 日（月）までに名立まちづくり協議会事務局　金子（☏）537－2182 へ

《すこやかサロン避難訓練》

２月 15 日(木)開催のすこやかサロンの中で津波を想定した避難訓練を実施しました。

参加者 10 名とスタッフ５名で名立地区公民館からお向かいの名立寺境内へスロープ側から避難しました。

普段、歩行器を使用している参加者にはスタッフがそれぞれ付き、歩行に心配がある方には車椅子に乗っていただきました。

避難に要した時間は約３分で想定していた時間より早く避難できたと思いますが、足の筋力が低下している方は介助者の支えがあってもスロープを上ることが難しいなど、参加者の状態を確認することができましたので、今後の対応に活かしていきたいと思います。

このように、地域支え合い事業は利用者の安全・安心を最優先に考えて実施していますので、サロンへの参加を希望される方は安心してお申し込みください。

《誰もが気軽に…第３回まちなかサロンのお知らせ》

１月 31 日に開催した第２回まちなかサロンには９町内から 13 名の参加があり、そのうちお二人はバスを利用されてお出でになりました。

お二人には大変ご足労をおかけしたと思いますが、「地区も年齢も問わず、誰もが自由に気軽に集える場所」という“まちなかサロン”の趣旨からいえば主催者としてはうれしく思いました。

この日はみなさん２時間楽しくおしゃべりされていて、きっと「笑う門には福が来」たでしょうね。

第３回まちなかサロンも同じ会場で開催しますので、どうぞお気軽にお出でください。

おひなさまも参加してくれました

□と　き：３月１日（金）９：30～11：30
□ところ：新町・牛木シズエさん宅
□内　容：健康チェック、軽体操、茶話会、レクリエーションなど
□参加費：200 円

【編集・発行】 名立まちづくり協議会　会長　三浦　元二
上越市名立区名立大町 200-1（名立地区公民館内）
担当：金子　僚子、石井　三千代
☎：025-537-2182　　FAX：025-546-7041
✉：matikyo-nadati@bz04.plala.or.jp
ホームページ URL：nagatatsu.com
インスタグラム https://www.instagram.com/nadachi.machikyo/

↑ＨＰ　　↑インスタグラム